

小店員募集

年齢十四五歳位
の者貳名至急雇
入たし
御希望の向は御
來談下さい

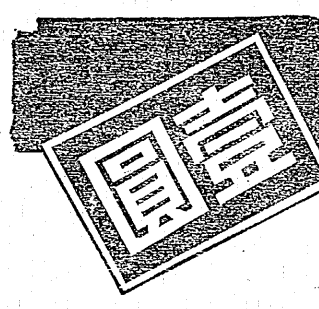
平町一丁目
和久井屋
電話四〇五番

寒サ愈々迫ル

マズ防寒具の準備が
第一です

子 供 洋 服
子 供 ラ シ ャ オ ー バ ー
婦 人 シ ョ ー ル
婦 人 毛 シ ャ ッ
毛 ア ン ダ ー
コ ー ト シ ャ ッ
壹 圓 均 一 の 特 賣
ワ イ シ ャ ッ

賣切れぬ中に
にツルヤ
平町四(電話百四十番)



鶴龜の意匠凝した
おしい
御土産折共
五品.....
御銚子壹本付

デンツ じょうよんばん
大浦焼 **大和家**

外科専門

木村外科醫院

入院自炊の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九番

女謝王恩

高級醬油 九升樽 五圓五十錢
最上醬油 九升樽 四圓五十錢
極上醬油 九升樽 貳圓七十錢

期間(十一月十六日ヨリ) 四十五日
十一月三十日マデ

| 種類 | 品名 | 商標 | 等級 | 金額 |
|----|-----|----|----|----|
| 一等 | 金壹圓 | 五 | 五 | 五 |
| 二等 | 金壹圓 | 五 | 五 | 五 |
| 三等 | 金壹圓 | 五 | 五 | 五 |
| 四等 | 金壹圓 | 五 | 五 | 五 |
| 五等 | 金壹圓 | 五 | 五 | 五 |

平町木村町(電話七四一)番
ヤマト醬油株式會社
營業所

御大典記念

珍菓子新製品發賣

尼子殿中 (箱入各種)
菊の友 (箱入各種)
マコロンケーキ (斤賣)

御求めの折は市内の約束店より御買上を
願ひます

電話にて申込次第見本進呈
平町小太郎町廿一

榮屋製菓店
電話三六〇番

藤沼醫院

平町紺屋町
電話五〇七番

小兒科
花柳科
科 (需應院入)

光線新設

獨逸シーメンス、ユニバーサル、ヘリオドル

主任 醫學博士 難波 睦
主任 醫學博士 波 睦

入院料 ①共濟會員 一日 金貳圓參拾錢也附付
②一般患者 一日 金貳圓八拾錢也附付
③入院自炊ノ便アリ

城營 **共濟病院**
平町(電話六四一)番

三益玉炭のお奨め

三井物産會社が多年研究ノ結果專賣特許ヲ得タ最モ文
化的ノ木炭代用ノ高級燃料デス

◎無煙無臭で火付が早く、火持ちが良く、火力が強く日
常のニヤキにはコンナ便な品はありません

◎それで値段は大變お安く木炭の三分の一で充分間に
合ひます

◎ドンナニ喰はずらいの人でも一度使へば必ず御氣
ニ召すのが此の玉炭の特長です

値段ハ壹箱金二圓、個數ハ約八百個内外
お申越次第見本を持參してご覧に供しますから申越
下さい

平 驛 前 (電話二二七番)
阿部石炭商店

コボマカ

原料精選—品質佳良
特別廉價—配達迅速

多少に拘はらず御用命願ひます

電話八二七番
鮮魚 仕出 **吉田かまぼこ店**
平町田町大通り

常新新聞

定 額 一 部 金 十 五 銭
一 月 金 十 五 銭
三 月 金 四 十 五 銭
六 月 金 七 十 五 銭
一 年 金 一 千 三 百 五 十 銭

廣 告 費 一 行 一 百 五 十 銭
一 行 一 百 五 十 銭
一 行 一 百 五 十 銭

休 日 祝 日 日 曜 日 休 日
日 曜 日 休 日

福 島 縣 石 城 郡 平 町 長 橋 町 三 五
發 行 所 常 務 毎 日 新 報 社
電 話 六 三 〇 番

日 刊 一 發 行 兼 編 輯 人 川 崎 文 治
本 社 下 同 番 地 (電 話 六 三 〇 番)
印 刷 所 常 務 毎 日 印 刷 所

刊 夕 日 六 十 二 月 一 十

御用はラチオ部へ御用命を

平驛前高野自轉車店
ラチオ部へ御用命を

▼三球式(附屬品一切付)
A 金百十圓也
B 金八十五圓也
C 金七十圓也

▼一球式(レシバー付)
A 蓄電池 金卅三圓也
B 乾電池 取付工事其他
ラチオ製作、部分品、

高野自轉車店ラチオ部
平驛前(電話三二六番)
仙台放送局指定加入申込取扱所

食パン 一斤 十六錢
レモン 一ツ 五錢
ミモ 一ツ 五錢
ラム 一ツ 五錢
ジャム 一ツ 五錢
松本 一ツ 五錢

目丁四町平
ヤトモツマ
番四一二話電

會田時計店

蓄音器・貴金屬
平町四(電三六三)

肉盤其まゝの高級
ビクターレコード枚、50錢
日本物と音楽
蓄音器針は
ビクター針先 35錢
一度試聴下さい

石城青年團歌を

土肥晚翠氏に依頼

大森副團長の後任は三森氏 昨日評議會の決定

石城郡聯合青年團にては昨日午前十時より磐城中學校に於て評議員會を開會、團長唐土警中校長座席に着き副團長大森勇氏が御大典を期し後進に譲る故を以て辭任申出ありたる旨の報告を爲し後任副團長詮衡の結果満場一致を以て前平青年團長三森虎雄氏を推薦決定し議事に移り御大典記念として聯合青年團の團旗及び團歌を作るべく決し團歌は唐土團長から新体詩人として有名であつた第二高等學校教授土肥晚翠氏に作歌を依頼する事になつた

神谷村長

圓滿辭職 助役も共に

石城郡神谷村長辭任問題で永い間紛糾を續け高岡元代議士の調停で長村長は多年村治の功績があつたといふので御大典終了後まで就任せしむる事とし兎に角一段落を告げて無事解決を見たが長村長は御大典も終了したので二十六日辭任することに決定したが是れ同時に同村の助役木村要次郎氏は村長と行動を共にする爲め辭職する旨を發表し、二十四日辭表を村長の手許まで提出したが、後任村長には元消防組頭佐藤久三郎

買収決定す

福島炭礦が 川瀨炭礦を

石城郡赤井村川瀨炭礦は財界不況から經營難に陥つた結果山下龍三氏經營の福島炭礦に合併することになり手付五萬圓で買収決定す

搬出が多量

收益案外に多額 磐城柿の

石城郡上遠野村大字澗を中心に隣村山田、田人村より産出する磐城名産柿谷柿は京阪及濱地方で逐年需要者を増し名譽を博してゐる上遠野村では出荷組合を設け村農會應援の下に植田町植田運送會社と共力従來の荷造りに依る莫大な損出を取返すべく大改良を加へてゐるが昨年植田驛扱ひ十一月二十餘車搬出してをり全量では悠々三十五車は出荷を見る勢ひで従來比較的等閑視されてゐた副業柿栽培が一般に重要視されるに到つたが收益案外に多額に上つてゐるので益々自發的な獎勵が行はれてゐる

起點を二方に置き

平小鐵道奪取運動 睨み合の型で猛烈に

湯本町最も躍起と

平町、小名濱間平小鐵道は昭和六年度から三箇年繼續事業として着工することに鐵道省の豫算を中心に附近各町村は鐵道の開通に依つて産業の發達を 圖る考へから豫定線の變更に付いて再三其筋に陳情をなしかた濱方部では木村代議士、鈴木縣議を中心に運動をなした結果平町を起點として飯野高久、夏井、豊間を迂回し小名濱に至るやう

老婆を殴る

和田の告訴騒ぎ

平町白銀町現住和用三(三)が夫たる同町三丁目和田禎宗氏を相手取つて提起した慰養料及離婚請求訴訟事件の證人調は去十九日平支部法廷において同町三丁目鈴木三(三)に就き行はれたが當日同人は被告のため不利な證言をしたといふので和田氏と同居中の吉田ちよ(三)は二十日正午頃みさが居宅附近の水道端において洗濯中なるを見てその不都合をなした處から争論となりそこへちよと志を同じふする應援者が現れたので更に騒ぎが大きくなり老体のみさはちよのため毆打され左側前膊に全治二週間の傷を負はせられ六丁目木村病院に入院したがみさはちよに對して二十四日平署に傷害の告訴をした

赤茶け

赤茶け 赤茶け 赤茶け

東京人

東京人 東京人 東京人

越見を暮 鮭の勢

鮭の一番おいしい時季です 魚市場や食糧品屋の店頭には切身や鹽の鮭が幾種類もならんでゐる 實際選擇にこまる位です。 鮭の一番上等は新巻ですが新巻鮭は十一月に北海道の根室を中心としてエトロフ島、千勝、北見でとれたものを海鹽で

箱詰に

箱詰に 箱詰に 箱詰に

各支店銀行

全く平常に復す

殊に植田の警東基礎固し 紙幣束も無用に

平對常警の兩銀行合併は實現可能で支拂停止の期間が永引く様な心配がない爲めから他銀行への影響等極めて少く百七や七十七夫れに農工等も折角本店から取り寄せて準備に怠らなかつた紙幣束も今は必要がないと送り返す事になり全く平常に復したが就中植田町の警東銀行は家族的な經營法が非常な強味となり何等の痛手を蒙らず依然として郡南財界に重きを爲して居る。同行の金成三氏は語

園藝共進會 入賞者氏名

既報本報主催園藝共進會の入賞者氏名左の如し

- 同 下小川村吉田 榮助
- 同 北會津門田成田 利雄
- 同 白草草野村 飯島 政雄
- 同 大根下小川箱崎伊之次郎
- 同 神谷村 志賀新太郎
- 同 牛蒡好間村 大谷 良助
- 同 葱飯野村 鹽 民 治
- 同 馬鈴薯信夫岡山 大規 泰助
- 同 細河治廣瀬 齊藤 久一
- 同 策 相馬八幡
- 同 真綿西白河釜子渡邊ミツ
- 同 梨 平窪村 金成八重子
- 同 信夫野田 羽田 喜七
- 同 平窪村 鈴木 重次郎
- 同 同 山田村 木内善次郎
- 同 若松榮町 二本 徳治
- 同 草野村 高木伊勢治
- 同 北會津門田 澗川 中八
- 同 下小川村 白石 龍夫
- 同 白草草野村 馬 上 昭
- 同 飯野村 山崎 善吉
- 同 田村中妻 影山 由吉
- 同 梨 平窪村 栗本 久光
- 同 外百二十四名
- 同 梨 相馬八幡菅野千代助
- 同 外四百五十七名